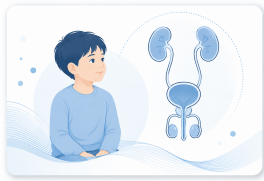


# 小児・アンドロロジーグループ



小児・アンドロロジーグループでは、小児泌尿器疾患、男性不妊症、男性生殖機能障害、泌尿生殖器癌に伴う内分泌環境の変化など、幅広い泌尿生殖器領域の研究に取り組んでいます。小児期から成人期までを連続したライフコースとして捉え、将来的な生殖機能やQOLの維持・向上につながる診療と研究を目指しています。

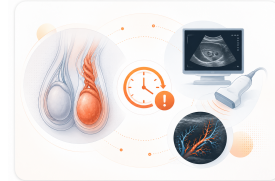
## 【臨床研究】



### 小児泌尿器疾患の診断・治療成績に関する研究

停留精巣、非触知精巣、移動精巣、尿道下裂、陰嚢水腫、包茎、水腎症、尿管瘤、膀胱尿管逆流症などを対象に、診断・治療方針・手術成績・長期予後を検討しています。

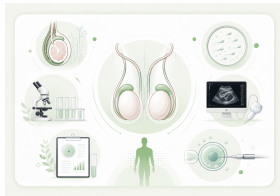
小児期の治療成績だけでなく、思春期以降の生殖機能やQOLを見据えた診療体制の構築を目指しています。



### 急性陰嚢症における精巣温存を目指した画像診断の研究

精巣捻転をはじめとする急性陰嚢症では、迅速な診断と治療判断が重要です。

超音波検査による血流評価や精巣硬度評価を用いて、精巣の状態をより正確に評価し、精巣温存率の向上と適切な手術適応判断につながる診断法の確立を目指しています。



### 精巣機能・男性不妊症に関する研究

無精子症、乏精子症、精子無力症、精索静脈瘤などを対象に、血液検査、精巣容積、精液検査、超音波検査、MRIを組み合わせて評価しています。

非閉塞性無精子症における精子回収予測や、精索静脈瘤術後の精液所見改善予測など、日常診療に直結するテーマに取り組んでいます。

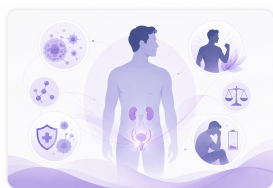


### 生活習慣と男性不妊症リスク因子に関する研究

男性不妊症には、ホルモン環境や精巣機能だけでなく、睡眠、喫煙、飲酒、肥満、ストレスなどの生活習慣が関与する可能性があります。

生活習慣、性機能、睡眠状態、血液検査、精液検査を総合的に評価し、リスク因子の解明と生活習慣介入を含めた診療戦略の構築を目指しています。

## 【臨床研究】



### 泌尿生殖器癌患者における内分泌環境とQOLに関する研究

男性泌尿生殖器癌患者さんでは、疾患の進行や治療の影響により、テストステロンをはじめとする内分  
男性泌尿生殖器癌患者さんでは、疾患の進行や治療の影響により、テストステロンをはじめとする内分  
男性泌尿生殖器癌患者さんでは、疾患の進行や治療の影響により、テストステロンをはじめとする内分泌環境が変化し、倦怠感、身体機能、精神面、QOLに影響を及ぼす可能性があります。  
癌関連疲労、内分泌環境、治療内容、病勢、QOLとの関連を検討し、治療成績だけでなく治療中・治療後の生活の質にも目を向けた診療への貢献を目指しています。



### ロボット支援腎盂形成術を含む低侵襲手術に関する研究

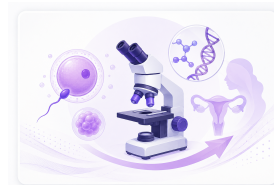
腎盂尿管移行部通過障害に対する腎盂形成術では、近年ロボット支援手術を含む低侵襲手術が広がっています。  
成人および小児・若年者の症例を対象に、手術成績、合併症、腎機能、術後画像所見を評価し、安全で有効な治療法の確立を目指しています。

## 【基礎研究】



### 環境因子と先天性泌尿生殖器疾患に関する研究

環境因子が胎児期から小児期の発生・発達や生殖機能に与える影響が注目されています。  
先天性男性生殖器疾患、性分化疾患、生殖機能障害を対象に、臨床情報と生体試料を組み合わせる疾患発症・進展との関連を検討しています。



### 生殖機能の基礎的病態解明に関する研究

小児泌尿器疾患や男性不妊症の背景には、精巣機能、造精機能、受精、発生に関わる複雑な生物学的機構があります。  
臨床研究で得られた疑問を基礎研究へ展開し、新たな診断法・治療法の開発につながる病態解明を目指しています。

## 今後の展望

小児泌尿器疾患、男性不妊症、男性生殖機能障害は、精巣機能や内分泌環境、生殖機能という共通した視点でつながっています。当グループでは、小児期から成人期までを見据えた泌尿生殖器診療を基盤に、臨床研究と基礎研究を連携させながら、患者さんの将来のQOL向上に貢献する研究を推進していきます。